

浪江町上下水道の運営をサポート

横浜ウォーター 鈴木慎哉社長の話



頂き、当社との協議が始まりました。同年10月に水道事業アドバイザー業務委託の契約締結に至り、アドバイザー業務がスタートしました。

水道は平成29年、下水道は令和元年から活動

当社が浪江町での取り組みを開始したのは平成29年です。大和田係長が短期間で復旧・復興を遂げた宮城県山元町を訪問した際に、横浜市と当社が上下水道事業の復旧・復興、そして事業運営にかかるとして総合的な支援を行っていることを知って

り業務も委託し、現状分析や汚水需要予測などを進め、公共下水道計画の見直しや公営企業会計の導入検討、処理場設備の更新や維持管理などの実務に関するアドバイスを実施しています。

これからも様々な支援と工夫が不可欠

震災前、水道では施設

ますので、今後とも様々な支援と工夫が不可欠ではないでしょうか。当社として出来る最大限のお手伝いを続けていきたいと思っています。

下水道については、効率的な事業運営に向けて震災の影響と考えられる不明水対策や状況にに応じたダウンサイジングを進めることが不可欠と感じ

に残留しており、課題解決に向けて引き続き調査や対策が必要であることを発信・共有し、原発被災地の現実を再認識のうえ、で未来に向けて取り組みが必要があると思います。

より効率的な事業運営の実現に向けた基準作りについても支援しています。それと並行して、平成30年には水道施設再構築計画検討業務委託の契約

今後の熱と柔軟な思考をもって取組み、意見を言い合える関係を

浪江町での取り組み

各分野の専門家がアドバイスマンパワーとノウハウを総合的に補完

施設維持管理と配水計画、給水装置工事、公営企業会計の各分野の専門家を配置し、現地調査を進めながら、正確な現状把握と同時に過去の状況把握と分析を行ったうえで、抱えている課題の解決に向けて短期的視点と中長期的視点を持つて総合的なアドバイスを提供しています。このなかで、給水装置工事設計施工指針を改訂するなど、

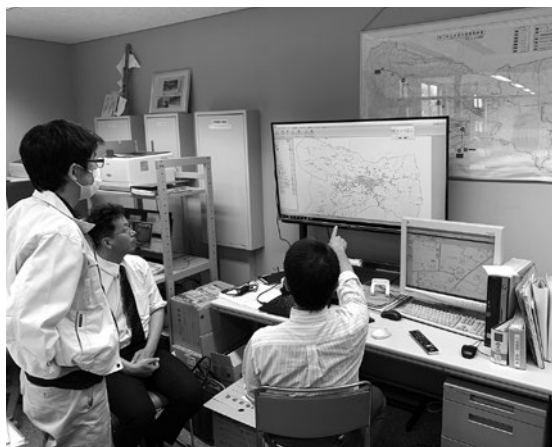
約を締結し、現実的な水需要予測を検討したうえで、できるだけ無駄のない施設再構築計画の策定をサポートしました。令和元年7月からは、下水道事業アドバイザー業務を委託していましたが、現在に限られた執行体制のなか、すべて直営で実施されています。マンパワーとノウハウ不足は喫緊の課題となっており、今後の震災の爪痕は未だ縮減は喫緊の命題となっており、原発被災地における震災の爪痕は未だ

は、水道は4年目、下水道は2年目を迎えています。道は、良好な関係を構築させて頂いており、些細なことで気軽に相談したいと思っています。これからの活動を通じて意見交換する場を設けるなど、浪江町と山元町で

決に少しでも貢献できれ

また、当社の活動を通じて、浪江町と山元町で意見交換する場を設けるなど、浪江町と山元町で

また、当社の活動を通じて、浪江町と山元町で意見交換する場を設けるなど、浪江町と山元町で



課題の解決に向けて短期的視点と中長期的視点を持つて総合的なアドバイス

をもつて取組み、意見を言い合える関係を継続できるように取り組んでいきたいと思っています。

また、当社の活動を通じて、浪江町と山元町で意見交換する場を設けるなど、浪江町と山元町で

また、当社の活動を通じて、浪江町と山元町で意見交換する場を設けるなど、浪江町と山元町で

また、当社の活動を通じて、浪江町と山元町で意見交換する場を設けるなど、浪江町と山元町で